

平成25年度 小松市立串小学校 学校評価計画

		自己評価			
		評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	備考
① 組織的な学校運営	〈組織的な学校運営〉 各主任が中核となり現状課題に対する改善提案をして、教職員各々が校務に責任をもち、一丸となって学校教育目標の具現化を図る。	【成果指標】 実態把握と現状課題に対する取り組み提案がされ、組織的に対応し成果を上げている。	提案が改善工夫され成果があった割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	主担当：総務部 評価方法：教師アンケート調査 実施時期：7月 12月	
	〈教職員研修〉 教職員は、積極的に研修に努め、その成果を他の教職員と共有し、本校にとって有効なものを共通理解し実践に結びつけていく。	【成果指標】 紙面を伴う研修報告を行い、成果を共有して、本校にとって有効なものを実践に結びつけている。	提案を受けて実践に結びつけられた学級数が A：12学級 B：10～11学級 C：8～9学級 D：7学級以下	主担当：教育推進部 評価方法：教師アンケート調査 実施時期：10月 1月初め	
	〈いじめ・不登校対応〉 児童理解の会を月一回開催し、いじめ及び児童の実態把握に努め、子どもたちの出すサインを見逃さない体制ができています。	【成果指標】 児童の思いを柔軟にとらえる教師集団が子どもたちの居場所のある学校づくりに励んでいる。	サインを見逃さない体制が出来ていると思う教師が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	主担当：生活指導部 評価方法：教師アンケート調査 実施時期：12月	
② 確かな学力の育成	〈授業改善〉 児童の実態を把握し、学び合い活動が見られる効果的な指導法を図り、授業力向上に努める。 【学びの指針第6条】	【成果指標】 学校研究の「かかわる」に関連し、授業の中で児童が関わり合いながら協力し高め合っている。	児童が互いに関わり合いながら、高め合っていると感じる教師が、 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	主担当：教務部 評価方法：教師アンケート調査 実施時期：7月 12月	
	〈学力の検証〉 国語、算数の学習内容の確実な習熟を進め、活用する力を育てる授業実践をする。 【学びの指針第3条】	【成果指標】 学力向上プランに取り組み、国語と算数において、学習内容の習得と活用が高まっている。	国語・算数の単元末テストの達成度平均が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	主担当：教務部 評価方法：国語・算数単元末テスト 実施時期：7月 12月	
③ 豊かな心の育成	〈積極的な生徒指導と学級づくり〉 授業の中で、積極的な生徒指導の視点から認め合い、励まし合う人間関係力を向上させ、生き生きとした楽しい学級づくりをする。	【成果指標】 授業を中心に、認め合い、励まし合う人間関係が高まり、児童が楽しく学級生活を送っている。	楽しい学級だと感じている児童の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	主担当：教育推進部 評価方法：児童アンケート調査 実施時期：6月 11月 2月	
	〈読書活動の充実〉 伝統ある読書活動を基盤に、学校の実態に合わせた取り組みを充実させ、進んで本に親しむ環境を整備し、豊かな情操を養う。 【学びの指針第8条】	【成果指標】 朝読書の充実と「おすすめ10冊(5冊)」をすべて読み終えるよう取り組んでいる。	おすすめ10冊を読み終えた児童の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	主担当：教育推進部 評価方法：読書冊数の集計調査 実施時期：10月 1月初め	
	〈主体性の育成〉 児童が学年を越えた様々な取り組みの下で、主体的に生活目標達成に向けて取り組んだり、規範意識を高め合ったりできるように指導を工夫する。	【成果指標】 児童会を中心として、生活目標の達成や規範意識の向上に向けて、自主的な取り組みを進めている。	生活目標に対するクラスのめあてを達成できた児童の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	主担当：生徒指導部 評価方法：児童アンケート調査 実施時期：4月 9月 1月	
④ 健やかな体の育成	〈体力づくり〉 体育授業の充実とスポチャレや一校一プラン、異学年交流等年間を通した体力づくりの取り組みを進め、運動の日常化と体力の向上を図る。	【成果指標】 体育の授業を中心に、年間を通した体力づくりに、意欲的に取り組んでいる。	運動が楽しい、できるようになったと感じる児童の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	主担当：健康安全部 評価方法：児童アンケート調査 実施時期：6月 11月	
	〈健康教育〉自己管理能力の育成 健康・安全・食育について、教科・特活と関連付けて計画し、総合的、系統的な指導を行って効果を上げる。	【成果指標】 けが防止等の自己管理能力に成果があり、健康的な生活を意識できる児童が増える。	成果があり意識の向上が見られる A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	主担当：健康安全部 評価方法：児童アンケート調査 実施時期：7月 1月	
⑤ 家庭・地域との連携	〈社会性の育成〉 学校・家庭・地域が連携して、日常的に自然で明るいあいさつができる児童を育成する。 【学びの指針第9条】	【成果指標】 学校ではもちろん、家庭や地域でも、児童が身近な人に気持ちのよいあいさつをしている。	児童が気持ちのよいあいさつを返してくれるようになってきたと感じている教師・保護者の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	主担当：生徒指導部 評価方法：保護者アンケート調査 教師アンケート調査 実施時期：6月 11月 2月	
	〈教育活動の公開と改善〉 学校の教育活動を公開し、保護者の意見を受け止め、改善項目の向上状況を見定めながら信頼される学校づくりに努める。	【満足度指標】 保護者・地域の意見を学校改善に生かしている。	アンケート結果で向上した項目の割合が A：全ての項目で B：8割の項目で C：6割の項目で D：5割以下の項目で	主担当：総務部 評価方法：保護者アンケート調査 実施時期：7月 1月	
	〈保護者・地域への情報提供〉 学校からの発信を充実させ、保護者に学校の経営方針や教育活動を伝え、理解と協力を得る。 【学びの指針第12条】	【満足度指標】 保護者に学校の経営方針や教育活動が理解されている。	学校の方針や様子が伝わっていると感じる保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	主担当：総務部 評価方法：保護者アンケート調査 実施時期：7月 1月	

